

- 1 ●6月議会で質問しました
いのちと暮らし最優先の
県政に
- 2 ●活動報告
●県民の宝 南房総の
美しい海や山を守る！
●どうなっているの？
千葉県議会の海外視察

入江あき子の

県議会報告



6月議会で質問しました

いのちと暮らし最優先の県政に

千葉県議会の定数は95人。本会議で質問ができるのは、年に1回です。6月議会の一般質問では、これまでも継続して取り組んでいる水問題、医療・介護、障がい者福祉や教育について、質問しました。

地下水は市民の財産

現在、佐倉市の水道水源の割合は、地下水62%、利根川の表流水38%。ところが、ハツ場ダムや霞ヶ浦導水事業が完成した場合、地下水が24%程度に減らされます。地盤沈下を理由に、県の環境保全条例で地下水の汲み上げが規制され、市の水源井戸32本のうち24本の暫定井戸が閉じられるからです。

県は1974年に佐倉市を地下水汲み上げ規制の対象区域に指定しました。ところが、北総地域を含む県内の地盤沈下は、現在ほぼ沈静化しています。地

盤沈下は地下水の汲み上げだけではなく、天然ガス採取、また地震等の地殻変動により複合的に起きるといわれています。県環境研究所も、地下水の汲み上げが地盤沈下の原因であるとは確定できないとしています。だからこそ、地域ごとの状況をより詳細に調査する必要があります。

入江質問 暫定井戸の汲み上げが地盤沈下を引き起こしているという根拠が示せないのであれば、地下水利用を継続すべきかどうか。

答弁 地盤沈下は沈静化の傾向にあるが、これまで通り現状の地下水採取規制を続ける。

コメント 佐倉市議会では過去3度、貴重な水道水源である地下水を守り飲み続けるために「地下水採取規制の見直しを求める意見書」を県に出しています。安全でおいしい地下水は佐倉市民の命の源であり、将来世代に継承すべき財産です。東日本大震災の時も地下水に助けられました。ダムと引きかえに手放すことはできません。今後とも県に粘り強く働きかけていきます。

総合診療専門医を育てる

団塊の世代が75歳以上になる2025年。これに向けて、入院ベッドの機能・数の再編、医療と介護の連携、在宅医療のしくみづくりが進められています。しかし、その受け皿が整わなければ医療・介護難民が生じかねません。特に医師の数が全国で3番目に少ない千葉県では、人材確保が大きな課題です。

とりわけ超高齢化社会で活躍が期待されているのが総合診療専門医すなわち、プライマリ・ケア医。患者の身体を臓器別ではなく全人的に診察し、内科や外科といった診療科の垣根を越



千葉大学医学部にて 5/10

えて対応することができません。私は、5年前からこの専門医が活躍している長野や県内の地域医療の現場を視察し、千葉県に積極的な養成支援を求めました。その結果、2012年度から県の予算がつけられ、研

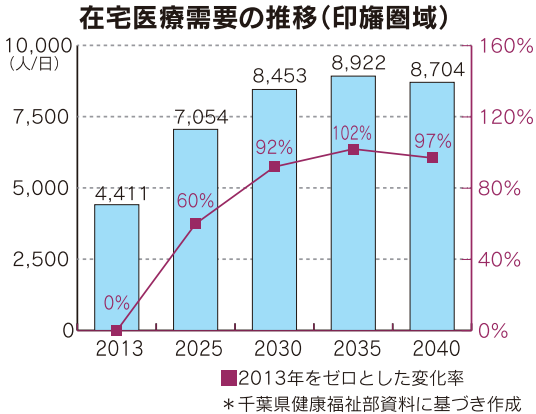
修医も増えています。現在、県内のプライマリ・ケア医の数は215名で、全国5番目になります。今年5月、この専門医の養成に力を入れている千葉大学医学部を訪問。プライマリ・ケアの第一人者である生坂正臣副院長からレクチャーを受け、議会質問に取りあげました。日本でもようやくプライマリ・ケアの必要性が認められ、来年度から新たに「総合診療専門医」の養成プログラムが始まります。現在、このプログラムに県内13施設が申請中とのこと。今後とも県にさらなる支援策を求めています。

在宅医療・介護の連携

千葉県における在宅医療の需要は20年後がピークで今の2倍、一日9200人という推計です。印旛圏域でも大幅な需要増が見込まれます。ところが、受け皿となる在宅療養支援診療所や在宅診療支援病院、訪問看護ステーション等は、まだまだ不足しています。印旛圏域の状況をみると、一般の診療所等でも、在宅医療を行っているところは少ないのが現状です。

答弁 今後どのように支援していくのか。昨年度、医師や看護師、ケアマネージャーなどに参加を呼びかけ、「広域連携会議」を開催した。県として、地区医師会との連携に向けて市町を個別にサポートするとともに、広域での連携を促進するなど、引き続き支援していく。

コメント 佐倉市でも相談支援体制や切れ目のないサービス提供体制がまだ整っていません。県の広域的な支援がさらに必要です。今後とも引き続き働きかけていきます。



印旛圏域の在宅医療 2014年9月の実施状況

	総施設数	往 診		在宅患者訪問診療				在宅看取り	
		施設数		実施件数		施設数		実施件数	
		施設数	全診療所中実施割合	実施件数	1施設当たり実施割合	施設数	全診療所中実施割合	実施件数	1施設当たり実施割合
診療所	386	65	16.8%	417	6.4	46	11.9%	3,492	75.9
病院	27	6	22.2%	46	7.7	11	40.7%	337	30.6

*厚労省調査資料より作成

活動報告

◆ 県立高校



県立佐倉高校にて 5/25

◆ 地域医療



県立佐原病院訪問看護ステーション 4/25

◆ 水循環



利根川の現地調査 4/28

◆ 障がい者福祉



しもふさ学園ケアホームを見学 4/25

◆ 県立高校



船橋定時制高校夜間給食を見学 7/12

◆ 地域医療



県立救急医療センター 5/18

◆ 地域経済



中小企業経営者との懇談会 4/19

◆ 環境



行徳野鳥観察舎を視察 6/10



県民の宝

南房総の美しい海や山を守る！

「館山の美しい山や海が残土で汚され、命や生活が脅かされている」と地元住民からの訴えがあり、6月議会常任委員会で県の姿勢を質しました。

館山市坂田の海は、珊瑚も生息する豊かな漁場です。その海を育んでいる山に5年前から東京ドーム約1杯分(96万㎡)の残土が埋め立てられてしまいました。本来、残土埋立事業の許可期限は3年ですが、当初計画は1年延長され、すでに事業は終了しています。

県が条例違反!?

ところが、今年5月、事業者は同じ場所にさらなる残土埋立を行いたいと許可申請をし、県はこれを「新たな事業」として受理してしまいました。しかし、この対応は間違っています。というのも、県は2003年に残土条例を改正し、計画変更する場合を「許可面積の2割以内の増加かつ1年以内の延

長」と限定し、無制限な事業拡大に歯止めをかけたからです。明らかに条例の解釈を捻じ曲げ、誤って運用することは認められないと、厳しく追及しました。

住民の悲痛な叫び

この間の埋立事業に地元の漁業者や住民たちは苦しめられてきま

した。事業の当初から許可取消を求める裁判も起こしてきました。また、残土の安全性を確かめるため、搬入された土の発生源を住民が追跡したところ、ほとんどが「出どころ不明な土」ということも判明しました。地質学者も土砂災害の危険性が高いと指摘しており、住民は不安の中で暮らしています。今回、県が「新たな事業」として許可すれば、さらに約50万㎡の残土が20mの高さで積み上げられてしまいます。

厳しい目が必要

県が住民の命や生活をないがしるにし、業界の利潤追求に手を貸すのであれば、行政の公平・公正性はありません。条例の立法趣旨を骨抜きにし、許可することのないうつ、引き続き地元の方々と共に、大きく声をあげていきます。

どうなっているの？ 千葉県議会の 海外視察

政治資金の私的流用問題で舛添都知事が退任。その後、都民の関心が都議会のブラジル視察に向けられ、急きょ中止となりました。3年前、千葉県議会ではしばらく中止していた議員の海外視察が復活。市民ネット会派は反対しましたが、賛成多数で押し切られ、毎年十名前後が海外に出かけています。

海外視察がどうしても必要であれば、議員個人に支給される政務活動費(年間420万円)を使うべきです。別枠の予算をとる必要はありません。

千葉県議会海外視察の状況

年度	行き先	派遣議員	費用(円)
2013	シンガポール マレーシア	11人(自民8・民主2・県民の声1)	4,937,095
2014	ベトナム	15人(自民10・民主3・みんな1・県民の声1)	4,679,740
2015	ブラジル	9人(自民6・民主2・県民の声1)	19,662,960
2016	イギリス	予定16人(自民11・民進4・我孫子1)	28,000,000 (予算ベース)

Akiko's PROFILE

入江あき子 プロフィール

- 1965年

仙台市生まれ
- 1988年

国際基督教大学(ICU)
教養学部社会科学科卒業
- 2003～2011年

佐倉市議会議員
- 現在

千葉県議会議員2期目 会派:市民ネット・社民・無所属
- ・文教常任委員会委員

・千葉県議会地震・津波対策議員連盟所属

・千葉県議会資源エネルギー問題懇話会所属

・原発事故子ども・被災者支援法推進自治体議員連盟所属

・自治体議員立憲ネットワーク所属

・ハッ場ダムを考える1都5県議会議員の会事務局長

・利根川流域市民委員会幹事